HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サヴェジ基礎論及び用心
Author(s)	園, 信太郎
Citation	經濟學研究, 70(2), 1-2
Issue Date	2020-12-17
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80154
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_ES_70(2)_001.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

経 済 学 研 究　70－2
北 海 道 大 学　2020.12

サヴェジ基礎論及び用心

園　　信 太 郎

1. はじめに

サヴェジ氏の「基礎論」には二つのギャップ（gap）が関わる。一つは，サヴェジ氏が観察している現象と「基礎論」の内容とのギャップ。もう一つは，サヴェジ氏が実際にやっていることと，「基礎論」の文章とのギャップである。これらのギャップに用心しないと，「基礎論」は難解な書物となってしまう。

2. 第一のギャップ

サヴェジ氏が観察しているのは本来の選好である。個人は自身の選好を活用して多様な選択を行っている。しかもしばしばほとんど意識せずに「ふたしか」を「処理」している。例えば，「このリンゴ」に虫食いがある「確率」を，通常は「計算」したりはしない。驚くべきことだが，我我は多様な潜在的「ふたしか」を，ほとんど意識せずに，「計算なし」で切り抜けている。

一方「基礎論」では，A. Wald の枠組みが「たてまえ」として尊重されている。だが，第5章第5節（Small worlds）まで読み進むと，この「たてまえ」はサヴェジ氏が本当になしたい事柄を，うまく反映していないことがわかる。彼が問題にしているのは，「大きな世界」，つまり grand world なのである。本来の選好は，この「大きな世界」に関するものであり，A. Wald 的な「小さな世界」に限定されるものではない。つまり，彼がやりたいことは，A. Wald の枠組みではうまく表現できないのである。

3. 第二のギャップ

第1章を読む限りでは，サヴェジ氏は「確率の解釈」を問題にしているように思われる。実際，彼はそのような発言をしている。ところが，第4章（Critical comments on personal probability）を熟読すると，彼が苦しんでいるのは「確率の定義」であることがわかる。「定義」は当然「確率の計算方法」に強く影響する。しかし，あくまでも「経済行動」に関わる「確率」である。今日でも，彼の（不確定性下選好に基づく）個人的確率は，経済行動に関する限り最も優れた「確率」であるだろう。つまり，かれの「定義」は健全である。

4. 期待効用

von Neumann と Morgenstern とによるあまりにも有名な「ゲームの理論」の第二版の付録で，von Neumann - Morgenstern 効用が導入された。しかし，それには根本的な問題があった。つまり，「確率」が無定義なのである。合理的な経済行動を考える場合，「無定義な確率に基づく個人的期待効用」を持ち出すのはおかしい。個人が合理的ならば，当然，自身の立場から「確率」を定義するであろう。つまり「個」は，「確率の定義」の問題から逃れられないはずである。

「個」は，（潜在的な）自身の期待効用に基づいて，個人的期待効用の最大化を行うのである。この期待効用は（潜在的な）個人的確率に基づく。これが本来のサヴェジ氏の世界である。

5. 補遺－朱子－

「合理」と言えば朱子（朱熹）である。だが，この「理」の字は重い。筆者は，三浦國雄博士の訳注である，『「朱子語類」抄』講談社学術文庫，2008 年，を一通り読んだのだが，歯がたたず，青息吐息であった。朱子の「理」と数学原理とを対決させることは，筆者には任が重すぎるのだ。しかし，行為の合理性を真剣に問うのならば，朱子は無視できない。朱子は自身の立場から禅仏教を消化し尽くした後に，「理」を措定しいる。実に重い一字である。

2020 年 7 月 1 日（水）

参考文献

Savage, Leonard Jimmie, *The Foundations of Statistics, Second Revised Edition*, Dover, New York, 1972. 第一版は Wiley より 1954 年に出ている。サヴェジ氏の「基礎論」である。学生の小生にこの書物の存在を指摘して下さった鈴木雪夫先生（故人）にささやかな謝意を記す。

Savage, Leonard Jimmie, *The Writings of Leonard Jimmie Savage—A Memorial Selection*—, The American Statistical Association, Washington, D. C., 1981. 必読の論文集。

園信太郎,『確率概念の近傍』，内田老鶴圃，東京，2014 年。ぜひとも付録を一瞥して頂きたい。

園信太郎,『サヴェジ・システム試論』，内田老鶴圃，東京，2017 年。St. Petersburg paradox がいかにして消去されるかを御覧頂きたい。